

■インド：国産加圧型重水炉 10 基の立地点を発表

2017 年 7 月 21 日付の報道によると、インド政府は、今年 5 月に公表した 70 万 kW 級国産加圧型重水炉（PHWR）10 基の新設について、具体的な発電所名を明らかにした。それによると、新設を計画しているのはカイガ発電所 5、6 号機、ゴラクパー発電所 3、4 号機、新チャッカ発電所 1、2 号機、新マヒ・バンスワラ発電所 1、2、3、4 号機で、2031 年までに建設するとしている。これは、インド下院での質問に対し原子力大臣が答えたもの。予算は 1 兆 500 億ルピー（約 1 兆 8,111 億円）とされる。国内では今後 5 年間に、この 10 基とは別に 670 万 kW 分の原子力炉の建設計画も進められている。なお、現在インドでは原子炉 22 基（計 678 万 kW）が稼働している。